

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

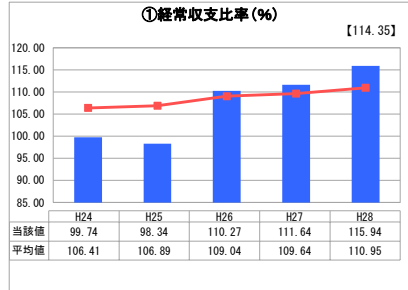
千葉県 八幡水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	97.28	85.66	4,449	

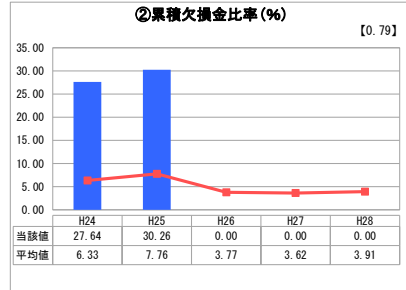
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
40,566	118.86	341.29

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

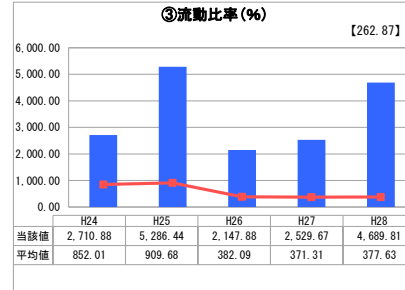
## 1. 経営の健全性・効率性



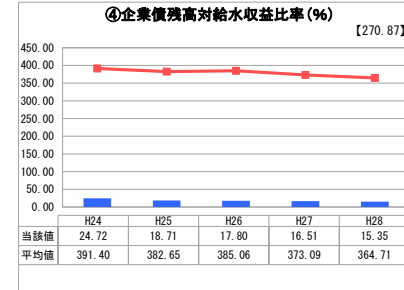
「経常損益」



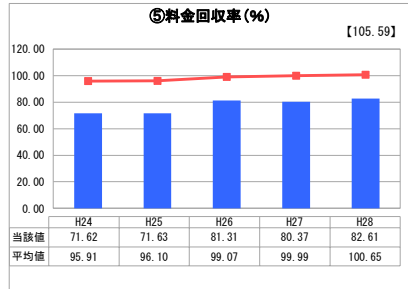
「累積欠損」



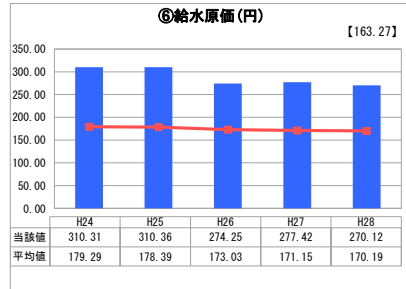
「支払能力」



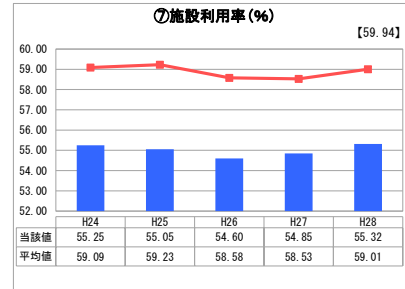
「債務残高」



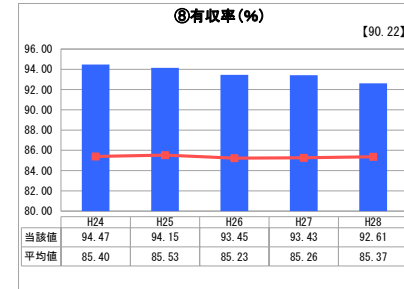
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

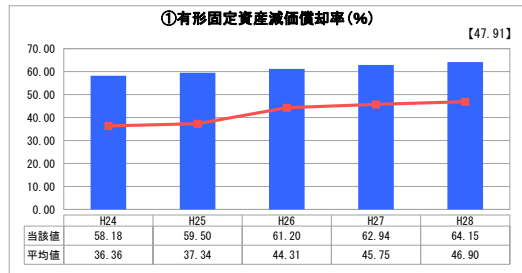


「施設の効率性」

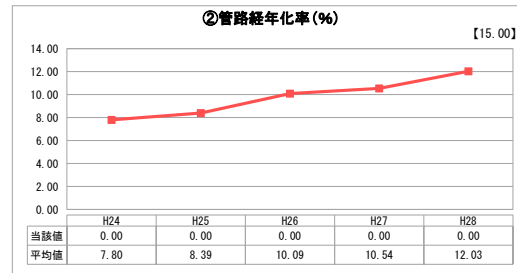


「供給した配水量の効率性」

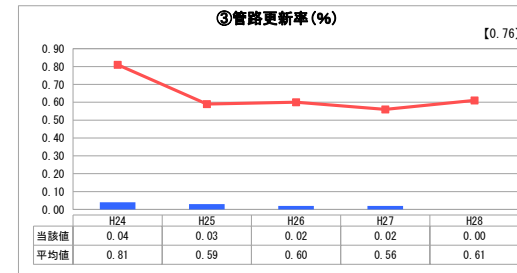
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

・経営収支比率、累積欠損比率、流動比率及び企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値を上回っており、一見健全な経営状況と思えるが、収入の多くを補助金等により賄っているため、料金回収率は低く経営状況は厳しい状況である。給水収益の増加に向けた取り組みが必要である。  
 ・有収率は高水準にあるが、水需要が減少している事から施設利用率が伸びており、施設更新時にダウンサイジングの検討が必要である。  
 ・給水原価については、水源に乏しい地域特性により受水費が膨大であるため、高水準となっている。

### 2. 老朽化の状況について

・現在管路については経年化率は0%であるが、近く創設時(S49～S52)に布設した配水管が、耐用年数を迎える状況である。  
 ・管路更新率は統計上0.00%であるが実際は昨年度と同様0.02%となっており、依然低い更新率であるが、平成29年度より重要給水施設配水管耐震化事業を開始する予定であり、今後改善されていくと見込まれる。

### 全体総括

・小規模事業体であり住宅密集度が少ないため、事業効率が良くない。また、水需要の減少により給水収益の増加も見込めない状況である。水源に乏しい地域特性により固定経費である受水費の割合が高く、費用の削減も難しいため、依然として厳しい経営状況である。  
 しかしながら、管路の耐震化率の向上と今後増加が見込まれる経年化率の改善のため、平成29年度より重要給水施設配水管耐震化事業を開始する予定であり、膨大な費用が必要となる事から、起債や交付金等を利用して、事業を推進していく予定である。  
 ・経営戦略については平成31年度までに作成する予定である。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。